

⑦ 広報よこしば

昨年、町の婦人科検診で三人の患者が発見されました。いずれも早期発見により、二週間足らずの入院ですみ、もちろん皆さん元気です。

女性のがん死亡の第一位は胃がん、二位は子宮がんです。この子宮がんの死亡は、二十五年間で半分に減っています。これは治療法の進歩もさることながら、集団検診による早期発見が最も大きな理由です。(早期発見によるがんは百パーセント治るといわれます)

ところで、普通のがんは中年



第10回
横芝ぶどう共進会



渡辺さんら
6人に特別賞

その甘さと粒ぞろいの良さで県下に名高い「横芝ぶどう」の共進会(町農業振興会果樹部会主催)が、八月五日に役場で開かれました。

今年は例年になく長梅雨で、日照時間が不足したため、作柄が心配されましたが、そこはさすがに「ぶどうづくりのプロ」の皆さん。会場には、味・粒ともにそろったぶどうが並びました。

今回の出品数は四十二点。厳正な審査の結果、特別賞に六点、一等賞に四点が選ばれました。特別賞の受賞者は次の方々です。

〈敬称略〉

保健婦の健康アドバイス

子宮がん

検診で

100パーセント完治

以降に多いのですが、子宮がんの場合は、ピークが三十四才と若いのが特徴です。また、子宮がんはほとんど症状がなく、不正出血などの症状がある場合は、他の病気の疑いが多いのです。

このようなことから、三十才を過ぎたら、何の症状がなくても必ず検診を受けるようにしてください。

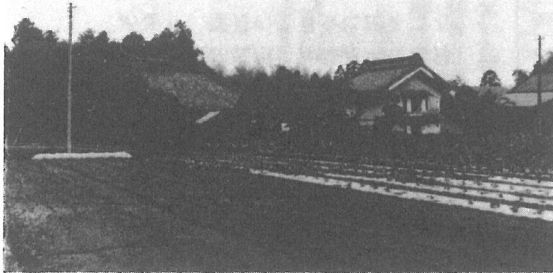
検診は五分もかかりません。単に、恥かしいとか、めんどうだからというだけで、自分の命を縮めないようにお願いしたいものです。



- 千葉県農業試験場長賞
渡辺 源一(栗山)
- 千葉県果樹園芸組合連合会長賞
小山 史行(上町)
- 山武支庁長賞
斉藤 貞夫(東町)
- 横芝町長賞
石川 益夫(栗山)
- 横芝町議会議長賞
矢沢 博(栗山)
- 横芝町農業振興会長賞
伊藤三千郎(上町)

と伝えられています。徳川が天下統一を果たした頃は、既にここに住んでいたようです。本家では代々祐園を名乗っています。が、口伝によりますと、これは伊東祐近の「祐」に因るものだという事です。何代目かの祐園は、一族の勢力強化のために二戸の分家を設立し、四反歩あまりの敷地を与えて屋敷を構えさせました。その一軒が私の家ということになりました。

その後、更に分家からも分家が出て、総本家を含めて七戸の伊東家が誕生するという、伊東一族繁栄の時代を迎えました。それだけに、外敵にも備える必要がでてきましたので、総本家では周囲に堀を巡らし、また分家では、護柵を兼ねた樹林を造る等の自衛手段を構じたりもしました。



守護神としての
庚申様

また、一族の守護神も祭りしました。それが宿の下の庚申様で、両側に刻まれている名前の中には、未だにその名を家号として残している家が三軒ほどありますが、すべて伊東姓を名乗っています。あの名前の中の定右衛門というのが、私の先祖になるようです。名前だけで名字が刻まれているのは、伊東家一族のものなので、総本家に遠慮したものか、或いは「名字帯刀の認許制」の徳川幕府の治政下によるものかは分かりませんが、先祖の墓石等には伊東姓が刻まれています。初代伊東祐園を葬ったという祠は今でも残っています」と説明をしてくれました。

伊東達雄さんのお話を聞いてから、再度訪れた庚申様は、うっそうとして続く県道沿いの伊東一族の守護神、というよりはマスコットのように見えました。これは私の拙劣な先入観のためでしょうか。

写真は、たまたまに昔の面影を残す宗家(伊東祐園氏宅)―分家が連なっている―

町文化財審議会委員
小沢春光さん寄稿